

令和 6 年度

効率的な南区公共交通の確保に向けた 意向調査業務

報 告 書

令和 7 年 3 月

新 潟 市
エヌシーイー株式会社

概要版

1. 外出状況

【回答者の特徴】

○今回のアンケートは、人口 (R6. 3. 31 現在) に対する年齢別では 70 代の回答割合が高く、日常の通学等に路線バスを利用している高校生の世代 (10 代) の回答率が少ない (表 1 参照)

【年齢別の外出状況】

○60代以下の年齢の外出目的は、「通勤・通学」の目的が最も多く、70代・80代では、「買い物」の目的が最も多い。そのため、最も多い外出目的では、10代から60代までは「ほぼ毎日外出」する人が多く、70代では「ほぼ毎日」と「週に2,3日程」が同じくらいである。公共交通は、毎日利用がある「通勤・通学」の移動手段を確保しつつ、外出頻度が少ないが高齢者の買い物、通院の移動手段の確保が必要である。（図1、図2参照）

表 1 年齡別回答數割合

年齢	回答数	人口	人口に対する回答割合
10歳未満	9	2,911	0.3%
10代	28	3,373	0.8%
20代	96	4,389	2.2%
30代	142	5,786	2.5%
40代	196	7,360	3.7%
50代	213	6,336	6.0%
60代	383	6,084	7.6%
70代	464	3,206	5.9%
80代	189	27	2.6%
90代	27	42	
100歳以上			
無回答	1,562	42,504	3.7%
合計			

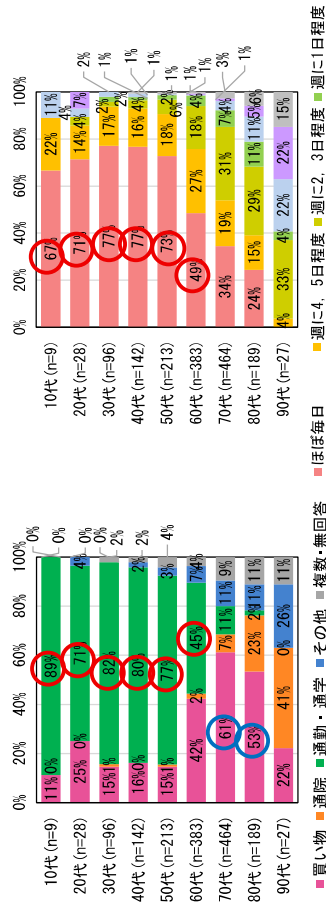


図1 年齢別最も多い外出目的

2. 南区住民の公共交通の利用状況

【移動手段】

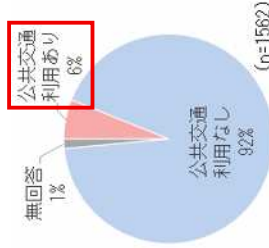
○目的地までの移動手段は、**公共交通利用が6%**、公共交通利用なのが92%である。公共交通を維持していく上で、「家用車（自分で運転）」からの転換を促し、利用者を増やす工夫が必要である。（図3参照）

※主に移動手段別割合（複数回答）

※上は移動、校別別日（複数回算入）

タクシー・1% 予約型垂合タクシー・1% 未適
日永川半（日乃（連年）：66%、ハス：9%、

「タタシ」：1%、小判聖米ロタタシ：1%未満



100

○公共交通を利用する場合に、乗り継ぎ場所としては「青山」と「新潟駅」が20%以上の高い割合を占めており、多くの路線が乗り入れている停留所であり、乗換えが行われている。また、鉄道の駅は燕三条駅を除き、南区から公共交通（路線バス、タクシー等）が運行されており、JRとの乗り継ぎが公共、交通結節点の役割を担っている。また、乗り継ぎをしなかった方も20%おり、乗り継ぎしない便を選んでいる可能性もある。（図4参照）

○青山は、路線バスの終点であることや、停留所に隣接して、買い物等の目的施設であるイオン新潟・青山店があり、乗り継ぎしやすく、利用が多い。

【外出時の利用・停留所】

○バスの利用は年に数回の方が多いが、バスを利用する時は、**40%以上の方が新潟県を利用**している。新潟県は上越新幹線などの鉄道や他の路線バスへの乗継が可能であるため、わかりやすく、利用しやすいと考えられる。また、帰宅時の利用に用いては、ほとんどが始発となる便であることから、乗車時に着席ができることもあって、新潟県を利用していると考えられる。(図5、図6参照)

【最寄りの停留所】

○停留所までの距離が5分未満（約300m）の方が33%、15分以下（約1km）の方が75%である。

公共交通機関のある地域（停留所から半徑300m）に住んでいる方が少なく、路線バス等が利用しにくい環境にあると考えられる。

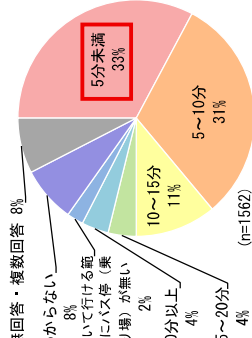


図7 最寄りの停留所までの徒歩での時間

【南区バスの改善要望】

○南区バスの改善要望としては、「朝、夕の通勤・通学の時間帯は便数を確保する」が57%で最多であり、**毎日の利用が想定される便の確保**の重要性が高いと考えられる。(図8参照)

【予約型乗合タクシーの改善要望】

○予約型乗合タクシーの改善は「運行内容等をもっと周知」が52%で最多である。ホームページや印刷物、出前講座等の広報は実施しているため、広報等を観てもらい、知ってもらえる工夫が必要である。(図9 参照)

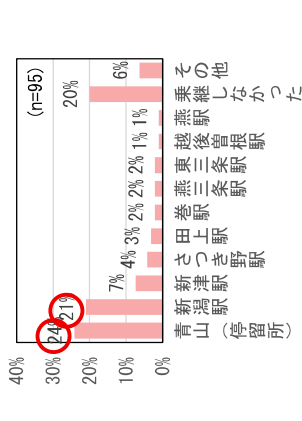
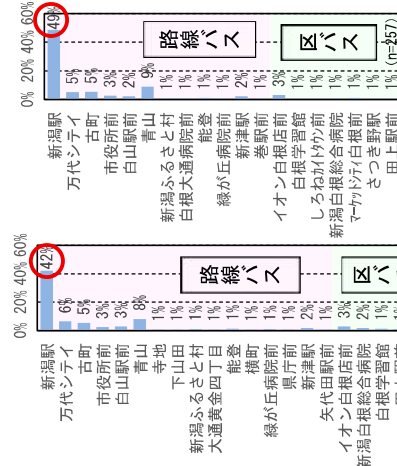


図4 公共交通を乗り継ぐ場所



さつき野駅
しろねカイトン前

1%	1%
1%	1%

(n=278)

図5 外出時に下車した主な停留所

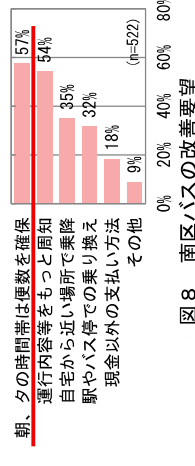


図8 南区バスの改善要望

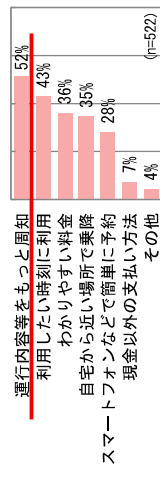


図9 予約型乗合タクシーの改善要望

3. 南区住民の移動する場合の目的地

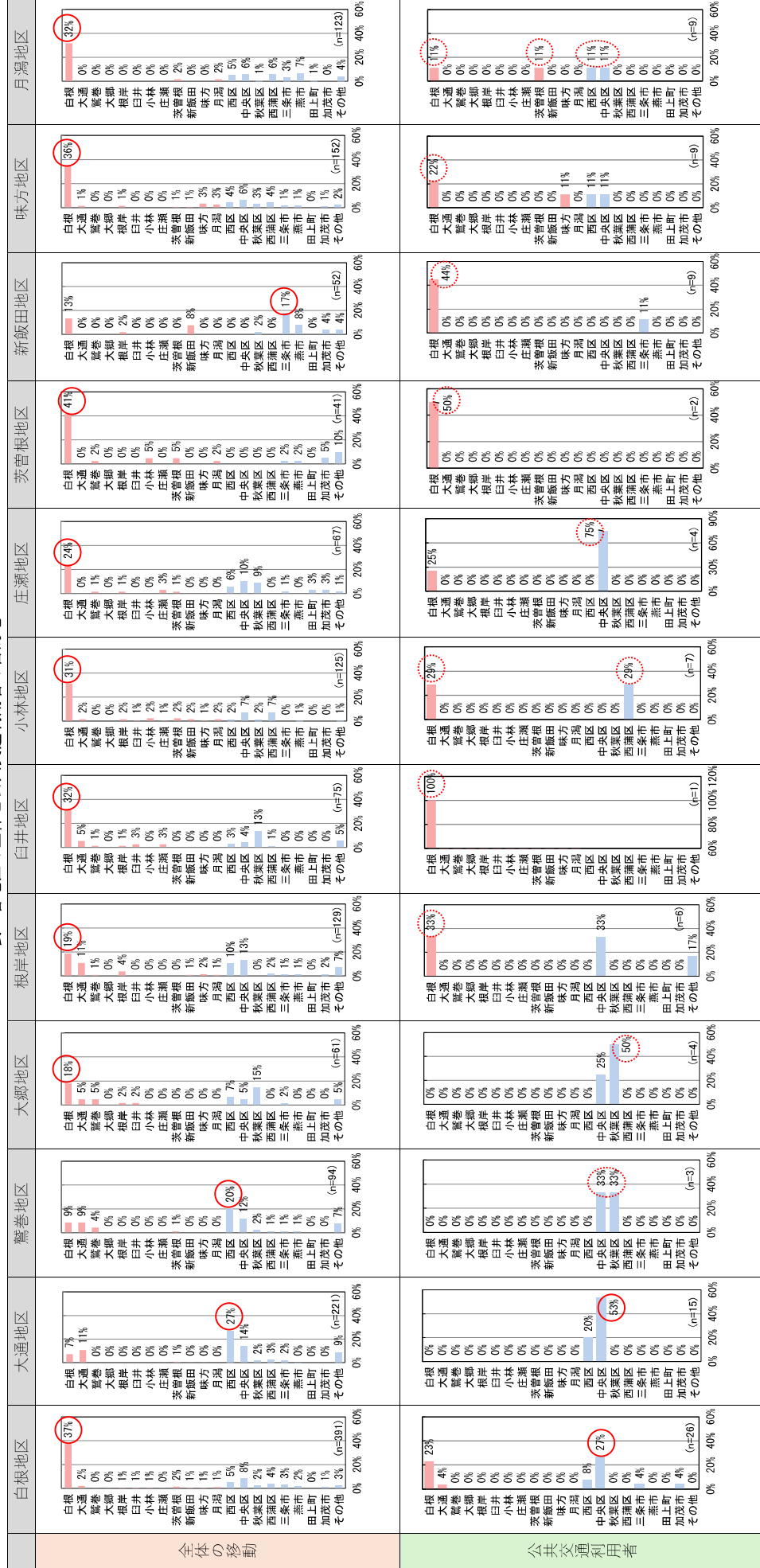
【全体の目的地方面と公共交通利用者の目的地方面】

○各地区の全体としては、大通地区、鶯巻地区、新飯田地区を除き、区の中心である白根地区を目的地としている人が多い割合である。
大通地区、鶯巻地区は西区、新飯田地区は三条市が多い割合である。

○一方、公共交通利用者では、自根地区が外出方面として最も多い地区は、根岸地区、白井地区、小林地区、根岸地区、茨曾根地区、新飯田地区、味方地区、月潟地区である。自根地区、大通地区、鷺巻地区、大郷地区、根岸地区（同率）、庄瀬地区、月潟地区（同率）は、路線バス等が運行されていることもあり中央区が最も多い割合である。

○公共交通の移動ニーズとして、数値的な差があるが「全体」とした目的地とほぼ同様の傾向がみられるため、各地区からの移動ニーズ（行先）にある程度対応できていると考えられる。

表 各地区の全体と公共交通利用者の目的地別

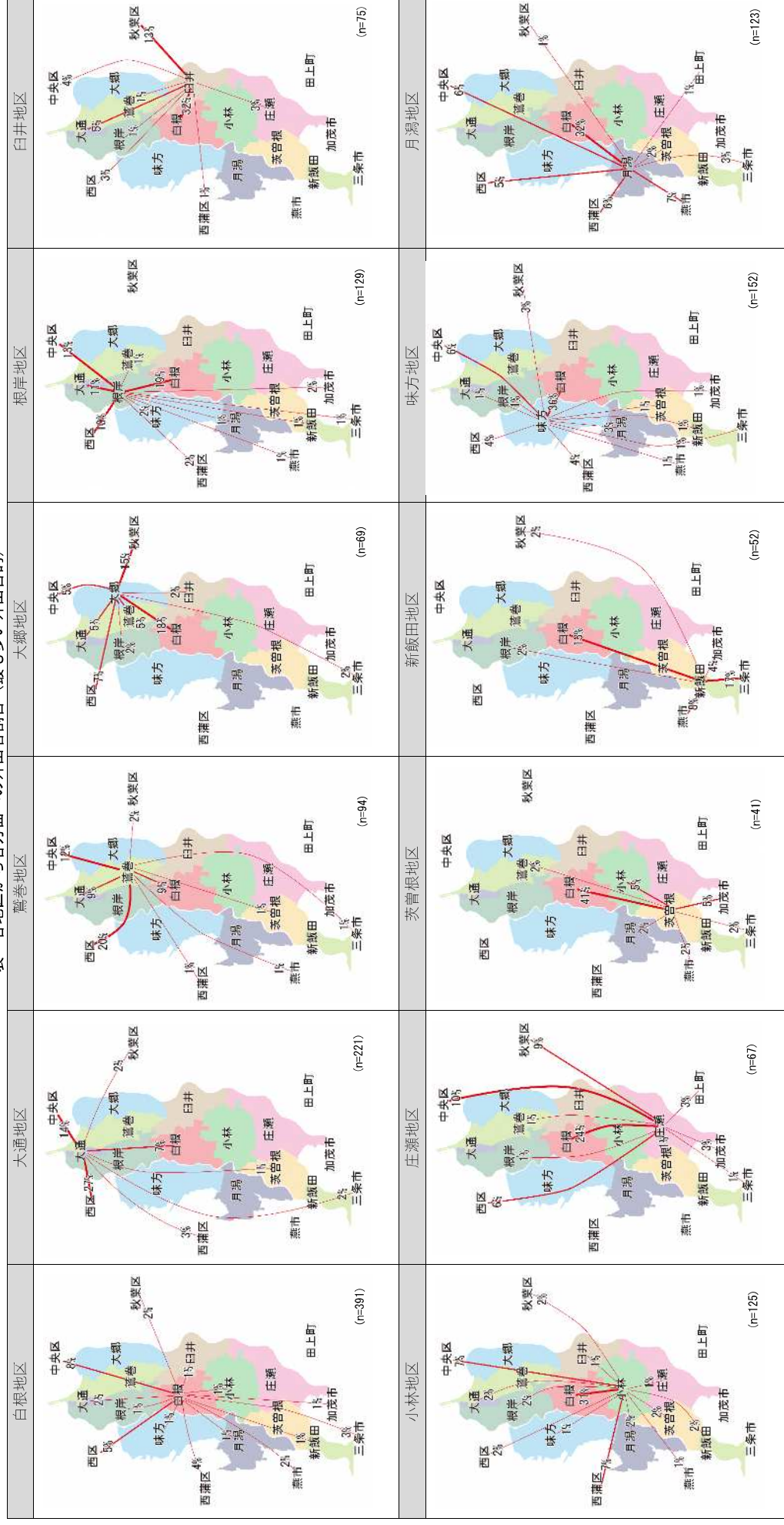


※「最も多い外出目的」について整理
※各地区とも最も多い目的地を赤丸。破線は回答者が10人未満の地区。複数・無回答は表示していない

【各地区からの主な目的地（方面）】

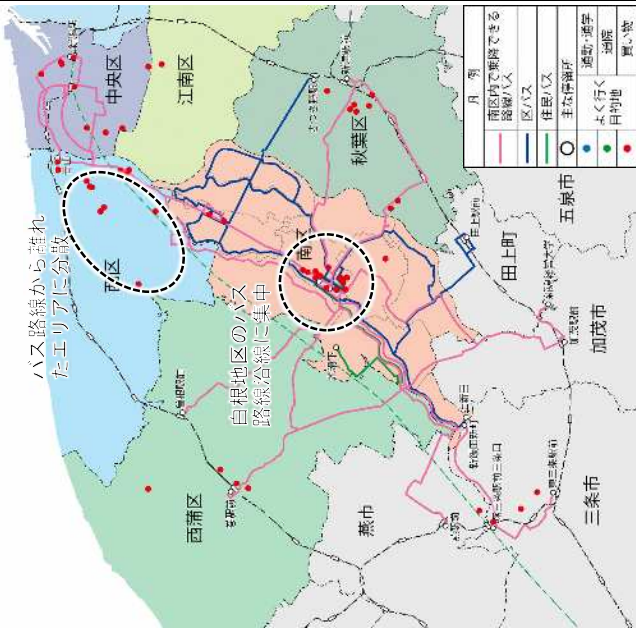
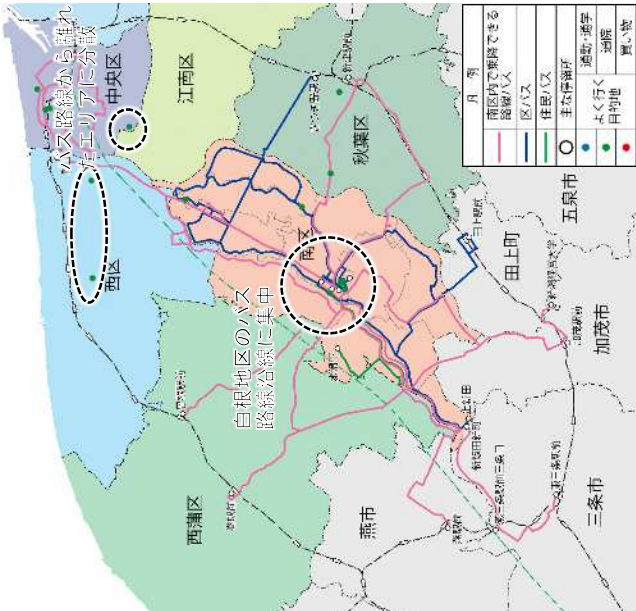
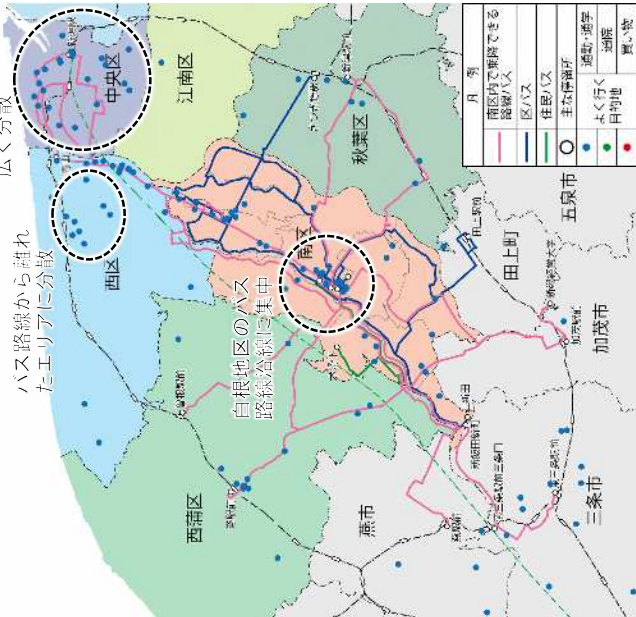
- 各地区とも区内の移動は隣接している区や他の自治体への移動が多い。南区の北側の地区でも三条市や燕市への移動、南側でも中央区や西区、秋葉区への移動があるが割合は少ない。
- 公共交通の運行は、地域別に設定することが、移動ニーズに対応した効率的な運行となると考えられる。

表 各地区から各方面への外出者割合（最も多い外出目的）



※自地域を目的地としている割合を除く

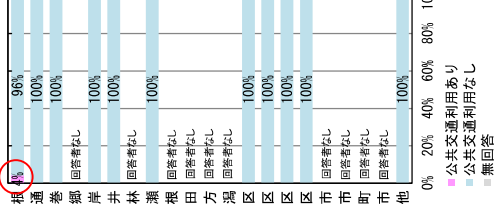
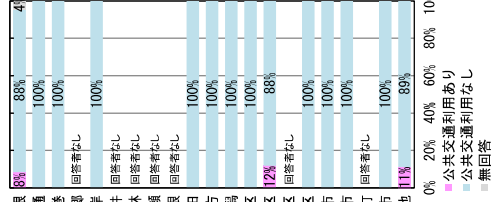
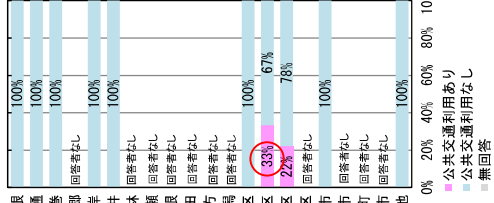
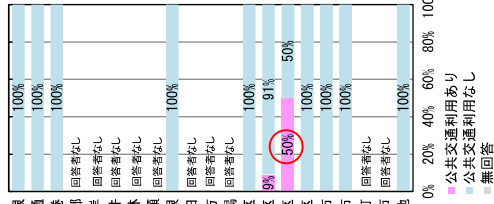
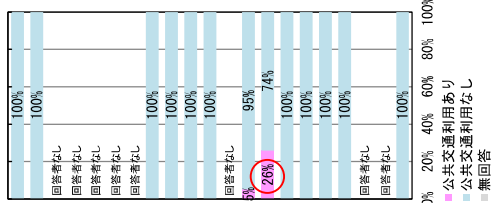
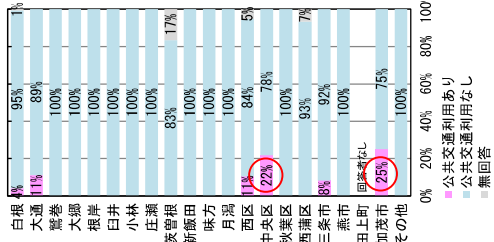
【目的別目的地（施設）】

目的	買い物	通院	通勤・通学
概要	買い物の場合、南区内が多く、区外では西区、中央区が多くの人目的地である。その中で南区内では原信白根店など白根地区が多く、西区では原信黒崎店やイオン新潟青山店、中央区では万代シティ、新潟駅など南区からのバス路線沿線の施設も多い。一方、西区では、南区からのバス路線沿線ではなく、アビタ新潟西店やイオン新潟西店など路線バスを乗り換える必要がある施設も少なくない。	通院の場合も、南区内が多く、区外では西区、中央区が多くの人目的地である。その中で南区内では、新潟白根総合病院など白根地区が多く、西区では済生会新潟病院や信楽園病院、中央区では新潟市民病院などがある。西区や中央区などでは、南区からのバス路線ではなく、路線バスを乗り換える必要がある施設もある。	通勤・通学の場合は、南区内、区外にかかわらず、広範囲にわたり目的地が分散している。そのため、南区からのバス路線沿線に目的地もあるが、西区では西区役所などの寺尾駅周辺やイオン新潟西店、中央区では鳥屋野潟南部エリアなど、路線バスを乗り換える必要がある施設もある。
位置図			
主な施設名	■南区：・原信白根店 ・イオン白根店 ・リオンドール白根店 ・ウオエイ国道店 ・ひらせい白根バイパス店 ・にいつフードセンター白根店 ・ウオロク白根大通店 ■西区：・原信黒崎店 ・アビタ新潟西店 ・ウオエイ金巻店 ・道の駅新潟ふるさと村 ・イオン新潟青山店 ・ムサシ新潟西店 ・イオン新潟西店 ■中央区：・万代シティ ・新潟駅 ■秋葉区：・コムリパワー新津店 ・にいつフードセンター小須戸店 ■西蒲区：・チャレンジャー巻店 ■三条市：・イオン三条店 ・コムリハード&グリーン三条店 ■燕市：・チャレンジャー燕三条店	■南区：・新潟白根総合病院 ・すずき醫院 ・田邊医院 ・はやみ整形外科クリニック ・広川医院 ・KOYANAGI 真柄CLINIC ■西区：・済生会新潟病院 ・信楽園病院 ■中央区：・新潟市民病院 ・がんセンター新潟病院 ・新潟大学医学総合病院 ・ARTクリニック白山 ■秋葉区：・五十嵐医院 ・まつむら齒科新津診療所	■南区：・原信白根店 ・イオン白根店 ・白根大通病院 ・ウェルシア新潟白根店 ・新潟白根総合病院 ■西区：・道の駅新潟ふるさと村 ・イオン新潟西店 ・西区役所 ■中央区：・新潟県庁 ・新潟伊勢丹 ・新潟市役所 ・ビックスワンスタジアム ・スポーツ公園 ■秋葉区：・秋葉区役所 ・こすと蒼丘の里 ・ショースタイル藍の里 ■西蒲区：・まいらふ岩室 ・(株)水倉組 ・中ノ口こども園 ・西蒲メディカルセンター病院 ■三条市：・(株)外山製作所 ・三条高校 ・(株)三條機械製作所 ■燕市：・フジイコーポレーション(株) ・(有)武政製作所 ■加茂市：・加茂農林高等学校 ・北星産業(株)

※最も多い外出先の回答

公共交通利用への転換の可能性（その1）

地区名	白根地区	大通地区	鷺巻地区	大郷地区	根岸地区	臼井地区
転換の可能性	○白根地区では、最も多い目的地が「白根地区」であり、具体的な施設では「原信の停留所」である。区バス停留所は店舗前の国道460号にあり道路と敷地内の駐車場を横断し店舗に到着するため、停留所から店舗までの距離が長い。停留所には路線バスが停車せず区バスへの乗り換えが必要である。バスを利用しない理由と関連させると、路線バスの運行経路の変更が非効率であると考え、乗り換え地点の整備や明確化による「利用の地に直接行かない」ことに対する改善や、区バスの接続時刻の改善などによる「利用したい時刻に便がない」の改善が行われれば、白根地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○大通地区では、最も多い具体的な施設では「ワオロク白根大商店」であるが、距離が短いこともあり公共交通の利用はほとんどない。中央区までのように移動距離が長くとなると公共交通の利用者があると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由も多い目的地は「西区」であるが予約型乗合タクシーの大野仲町周辺ではないため、アピタ新潟生会新潟病院方面への移動方法の検討により「目的地に直接行かない」ことに対する改善や、「利用したい時刻に便がない」の改善が行われ、大通地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○鷺巻地区では、最も多い目的地が「西区」であるが、公共交通を短く乗り継ぐ必要もない。中央区や秋葉区までのように移動距離が長くとなると公共交通の利用者があると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由的地的地は「西区」であるが予約型乗合タクシーの大野仲町周辺ではないため、アピタ新潟西店や済生会新潟病院方面への移動方法の検討により「目的地に直接行かない」ことに対する改善が考えられる。また、区バスや予約型乗合タクシーの路線バスとの接続時刻の改善などによる「利用したい時刻に便がない」という認識が改善され、鷺巻地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○大郷地区では、最も多い目的地が「白根」であるが、公共交通の利用はほとんどない。中央区や秋葉区までのように移動距離が長くとなると公共交通の利用者があると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、周辺に路線バスが運行されていない、区バスは運行便数が少ないため、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「利用したい時刻に便がない」という認識が改善され、根岸地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○根岸地区では、最も多い目的地が「白根」であるが、公共交通の利用は8%程度である。中央区までのように公共交通の利用者が増えると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、周辺に路線バスが運行されていない、区バスは運行便数が少ないため、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「利用したい時刻に便がない」という認識が改善され、根岸地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○臼井地区では、最も多い目的地が「白根」であるが、公共交通の利用は4%程度である。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、区バスは運行便数が少ないため、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「目的地に直接行かない」の改善が行われ、利用できる便数が増加するため「利用したい時刻に便がない」という認識も改善され、臼井地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。



アンケート結果（目的地方面）

■公共交通利用への転換の可能性（その2）

地区名	小林地区	庄瀬地区	茨菅根地区	新飯田地区	味方地区	月潟地区
転換の可能性	○小林地区では、最も多い目的地が「白根」であるが、公共交通の利用は5%程度である。西蒲区のように移動距離が長くなることと公共交通の利用者があると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、区バスは運行便数が少ないため、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「目的地に直接行かない」ことや「自宅からバス停が遠い」こととの認識が改善され、加えて利用できる便数が増加するため「利用したい時刻に便がない」という認識も改善され、小林地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○庄瀬地区では、最も多い目的地が「白根」であるが、公共交通の利用は6%程度である。中央区のように移動距離が長くなることと公共交通の利用者があると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、区バスは運行便数が少ないため、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「目的地に直接行かない」ことと、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「目的地に直接行かない」という認識が改善され、利用できる便数が増加するため「利用したい時刻に便がない」という認識も改善され、庄瀬地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○茨菅根地区では、最も多い目的地が「白根」であるが、公共交通の利用は6%程度である。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、区バスは運行便数が少ないため、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「目的地に直接行かない」という認識が改善され、利用できる便数が増加するため「利用したい時刻に便がない」という認識も改善され、茨菅根地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○新飯田地区では、最も多い目的地が「三条市」であるが、公共交通の利用は11%である。白根地区に向かう場合も公共交通の利用者が多い。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、区バスは運行便数が少ないため、予約型乗合タクシーの運行時刻や乗り方を周知することにより「目的地に直接行かない」という認識が改善され、利用できる便数が増加するため「利用したい時刻に便がない」という認識も改善され、新飯田地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○味方地区では、最も多い目的地が「白根地区」であるが、公共交通の利用は4%程度である。味方地区内や西区、中央区など路線バスの味方線があるため、公共交通の利用者がいると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、白根地区（目的的地）への移動ニーズに対しては一日一往復の住民バスでは対応できていない。月潟地区から白根地区への公共交通手段の頻度の向上ができれば、月潟地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。	○月潟地区では、最も多い目的地が「白根地区」であるが、公共交通の利用は3%程度である。西区、中央区など路線バスの月潟線があるため、公共交通の利用者がいると考えられる。バスや予約型乗合タクシーを利用しない理由と関連させると、白根地区（目的的地）への移動ニーズに対しては一日一往復の住民バスでは対応できていない。月潟地区から白根地区への公共交通手段の頻度の向上ができれば、月潟地区の公共交通利用者が増加する可能性がある。
アンケート結果						